



# 家庭での継続的な性教育を目指した「いのちのおはなし会」の実践

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻：佐々木裕子、藤田千春、長谷川和子、鈴木朋子

## 活動の背景

近年、性被害の低年齢化が深刻な社会問題となっており、国は2023年度より子供たちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう「生命（いのち）の安全教育」を開始した。さらに、多様な性に関わるいじめや自殺を防ぐためにも、予防的取り組みの一環として子どもの発達段階に応じた就学前からの性教育が急務である。そのためには周りの大人が命や性について正しい知識とスキルを持ち、家庭での継続的な性教育が望まれる。

## 活動の目的

- ① 子どもたちが命の大切さを理解し、自分や周りの友達を大切にできる
- ② 子どもたちがプライベートゾーンを理解し、体を守ることができる
- ③ 子どもたちがこころの性の多様性を理解し、自分とは違う友達を大切にできる
- ④ 周りの大人たちが子どもからの身体や性に関する質問に向き合い教育的関わりを考える機会となる

## 対象及び方法

手続き：保育園に直接、または三鷹市園長会にて依頼した。  
 対象：三鷹市と近郊の保育園の4歳児・5歳児と保護者  
 方法：おはなし会のプログラムに基づき2部構成とした。  
 資料：「いのちやからだのこことどう伝える」を配布。

【第1部】学生によるパネルシアターとエプロンシアター  
 いのちの誕生、出産、男女の体のちがい、  
 プライベートゾーン、多様な心の性（30分）  
 【第2部】赤ちゃん人形の抱っこ体験・振り返り（15分）

## 今年度の活動実績

今年度の活動は、13ヶ所の保育園で実施した(表1)。

おはなし会に参加した子どもの総数は289名、保護者42名、保育園職員65名、活動に参加した学生14名、のべ52名であった。

【子どもたちの反応】ハートのカードに仕掛けたいのちの始まりの小さな点を不思議そうに覗く子どもの姿、赤ちゃんの誕生までの胎児パネルをめくるたびに聞こえる子ども達の歓声、赤ちゃん誕生の場面でお母さんを“頑張れ！”と声に出して応援する姿など、子ども達がワクワクしながらおはなし会に参加している様子が見られた。プライベートゾーンは子ども達に浸透しており、洋服を着ること清潔にすることは理解できているようであった。【保護者の反応】「生まれた時のことや赤ちゃんがどこから来るか等の子どもからの質問にこらえられず悩んでいたが、子どもにわかりやすい言葉で話をするヒントが得られた」「子どもがおはなし会を聞く姿が感動的であった」「小学校に繋がる性教育を検討してほしい」など、肯定的な反応が多数聞かれた。

表1. 活動の概要

保育園	実施日	子ども	保護者
A	8月 6日AM	38	17
B	8月 6日PM	19	3
C	8月 7日AM	21	0
D	8月 7日PM	19	1
E	8月 8日PM	28	0
F	3月 2日AM	23	0
G	3月 2日PM	17	5
H	3月 4日AM	23	2
I	3月 4日PM	21	0
J	3月 5日PM	18	2
K	3月 5日AM	32	1
L	3月 6日AM	17	5
M	3月 6日PM	13	6
合計	13か所	289	42



図. おはなし会の様子



## まとめ・おはなし会の教育的効果

今年度の活動では、保護者の参加者数が42名で昨年度と同様であった。園によって参加者のばらつきがあるため、保護者がおはなし会に参加する意義を保育園に伝えていく必要がある。一方で、おはなし会後に「子どもが、赤ちゃんと母親が臍の緒で繋がっている絵を書いてくれた」「寝る前に、子どもがおなかにいた時のことや会いたかったことを話した」など、おはなし会で聞いたことが子どもの記憶に残り家庭でも語られていることや、保護者にとってもわが子の誕生を振り返る機会になっていることがわかった。活動した学生は子どもたちの反応や真剣に話を聞く姿からおはなし会のやりがいを感じ、次年度以降の活動継続の意思や、幼児期から性やからだに関する正しい知識を伝えていくことの意義を実感する機会となるなど、あらゆる立場の参加者にとって肯定的な教育的効果に繋がっていた。